

老人クラブで① いきいきシニアライフ

☎高年齢福祉課 43-9104

（青森県老人クラブ連合会 このへひでき 五戸秀樹常務理事兼事務局長に老人クラブについてお話を伺いました。）

地域の担い手として～社会における老人クラブの重要性～

高齢になっても住み慣れた地域で元気に安心して暮らすことができる「地域共生社会」の担い手として老人クラブは期待されています。コロナ禍が長期化していますが、状況に応じて地域高齢者が集まる「つどいの場」を継続しており、老人クラブが目指す友愛活動（多様な生活支援、見守りなど）は、「地域共生社会」そのものです。

老人クラブのいま～老人クラブの高齢化問題～

老人クラブの最大の課題はクラブ数と会員数の減少です。青森県内で、ピーク時（平成10年）に2,059あったクラブも、令和3年度は1,099クラブにまで減少し、会員数も約11万4千人から約3万人へと大幅に減少しています。特に新規加入者が少なく、その結果、クラブの会員組織自体が高齢化し、今までの活動ができなくなり、クラブの解散や休止へとつながっています。



健康福祉大学校

老人クラブのこれから～支えられる団体から支える団体へ～

青森県老人クラブ連合会では、リーダー養成の健康福祉大学校の開設や、事務手続き支援、生きがいづくりの芸能発表大会などを実施し、ICT（情報通信技術）支援事業も展開しています。今後は特に、若手の高齢者が参加できる活動が必要です。老人クラブが超高齢社会において、地域の諸問題を解決できる頼られる団体になっていければと思います。



オンライン会議の様子

いかずきんズと学ぶ!



SDGs 3

SDGsの推進に向けた取り組み

☎政策推進課 43-9233



14 海の豊かさを
まもろう

SDGs17の目標

14. 海の豊かさを守ろう

市ではSDGsの推進に向けた取り組みの一つとして、漁業関係団体と連携し、八戸港の海底に沈んだごみの回収事業を行っています。この取り組みは令和元年6月、八戸市内の漁業関係団体6団体が「八戸港版SDGs」の推進を宣言したことがきっかけで開始されました。

今年度は6月17日に底引き網漁船10隻で海底ごみを回収したところ、プラスチック類をはじめ、さまざまなごみが回収されました。これらのごみは海に直接捨てられたものだけでなく、川や用水路を通過して海に流れ出てしまった生活ごみも多いと言われています。

八戸港版SDGs宣言は
港湾単位では全国で
初めての宣言だったん
だにゃ～。



当日は大久喜小学校の子ども
たちが見学に来てくれました。

関係する
ゴール

この取り組みは海をきれいにすることで、ゴールの14「海の豊かさを守ろう」につながるだけでなく、以下の2つにもつながる取り組みとなっています。



12 つくる責任
つかう責任

ゴールの12

「つくる責任つかう責任」
海にごみ流れ出ないように
ごみをちゃんと捨てよう



17 パートナシップで
目標を達成しよう

ゴールの17

「パートナーシップで目標を達成しよう」
目標達成のために関係団体が
連携して取り組んでいる

ひとつの取り組みがいろいろな
ゴールに関係するんだにゃ～。



ホームページ



携帯用HP



LINE



「広報」「市議会だより」が閲覧可!